京進　脳科学に基づく学習法リーチングメソッド
Watchword②

自立への第一歩
態度教育・ほめる指導

態度教育なぜ必要？

京進が行っている指導の中で、態度教育があります。理由は、社会規範（モラル）や自分の価値観に基づいて自ら考え、行動できるような自立型人間を育成したいからです。
自発性は自然に育まれるものではなく、態度教育によって育まれるものです。
例えば、人が教えなくてもドアを開けて出ていくネコはいますが、その後ドアを閉めるネコはいません。ドアを閉めるということは、しつけすることでのみ可能なのです。

『褒める』ことはなぜ必要？

『褒める』の3つのプロセス

しつけには「褒める」と「叱る」の２種類あり、さらに「褒める」には３つのプロセスがあるとされています。京進の「褒める指導」は自己強化の実現を目指しています。

STEP 1　**外発的強化**　褒められるとうれしいからやってみる

STEP 2　**代理強化**　周りの人が褒められるのをみて自分もやってみる

STEP 3　**自己強化**　褒められなくても良いと思ったことを自分からすすんでやる。自分自身を「よくやった」と褒める

自ら良い行動をする(自己強化)の重要性

脳は、受け身で行動(学習)するよりも自分から進んで行動(学習)した方が活発に働くことがわかっています。自分の意思を働かせて行動すれば脳が活性化するということです。

ネズミのヒゲにスポンジを近づけて触れさせるよりも、自らヒゲを近づけてさわりにいくネズミの方が、脳の活動が 10 倍活発だそうです。自己強化の有効性はこのような実験でも実証されています。

良い褒め方とは？

叱ることが必要な場面も必ずありますが、**まず褒めることが教育の基本姿勢** です。
叱るだけでは、人が見ていないところで努力しなくなります。
そのため、自己強化に至らず、自ら進んで学ぶ力は養われません。
褒める指導の第一歩は、**子どもたちのちょっとした変化に気づくこと** です。
また、**結果よりプロセスを褒めること** もポイントです。
努力しているところをちゃんと見ていると伝えることで自発性が育まれます。
比較する対象は「過去の本人」です、成長を実感することで自信も芽生えるのです。